

# 避妊手術のデメリット

## ネコちゃんの年齢換算早見表

### ネコちゃんの避妊手術について

#### ● 麻酔の危険性

現在、人医療においても、「100%安全な麻酔」は存在しません。少しでも麻酔の危険性を減らすために十分な注意を払います。その為、当院では必ず術前検査を行ってからの手術になります。

手術中は各種モニターにより生体反応(心拍数、呼吸数、血圧、体温、動脈血酸素飽和度)を観察し、異常時に備えております。



#### ● 太りやすくなる

男の子、女の子ともに発情ストレスがなくなり必要カロリーが少なくなります。手術前と同じ量のフードを食べていると太りやすくなる傾向がありますので、カロリーコントロールをおすすめします。太りにくいようにカロリー計算されているフードも販売しています。



#### ● 繁殖ができなくなる

術後は、交配、出産ができなくなります。



御不明な点は御気軽にスタッフまでお尋ねください。



成田動物病院 黒石

☎ 0172-55-8520

人間	猫
1歳	17歳
2歳	23歳
3歳	28歳
4歳	32歳
5歳	36歳
6歳	40歳
7歳	44歳
8歳	48歳
9歳	52歳
10歳	56歳
11歳	60歳
12歳	64歳
13歳	68歳
14歳	72歳
15歳	76歳
16歳	80歳
17歳	84歳
18歳	88歳
19歳	92歳
20歳	96歳

避妊手術をすると様々な病気を予防できるため長生きにつながります。  
また、もらい手のないかわいそうな子を増やさないためにも、手術をしてあげるようにしましょう。





## 手術で得られるメリット



### ネコちゃんの避妊手術

手術を受けることで、様々な病気の予防ができます。また発情のストレスから解放させるだけでなく、問題行動を改善できる可能性があります。

#### どんな手術なの？

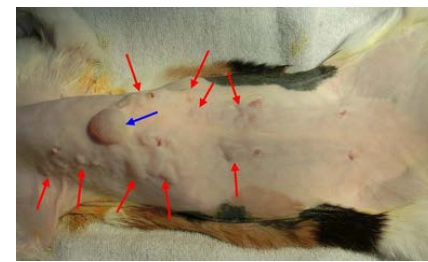
左右の卵巣と子宮を摘出する手術です。

術前検査の結果に問題がなければ、何歳でもできますが、初めての性成熟（生後6ヶ月位）前に実施するのが理想的です。

麻酔の覚め具合がよければ、**日帰り手術**になります。

### 主な効果

- 乳腺腫瘍の予防      ネコちゃんの乳腺腫瘍は、**90%が悪性腫瘍**です。腫瘍が自潰して化膿すると悪臭を放ち、他の臓器（特に肺が多い）への転移は死を招く事になります。初回発情が来る前に手術をすると、**発生率が大幅(5%以下)に抑えられます**。



乳腺腫瘍の例

- 生殖器（卵巣・子宮）の病気を予防できます。

- ケンカや、交尾で、伝染する病気を予防できます。

～ 猫白血病ウイルス感染症～      白血病の他に貧血や免疫力の低下、リンパ腫、流産、腎臓病などいろいろな病気を併発し、発病すると**致命的な病気**です。

～ 猫免疫不全ウイルス感染症～      リンパが腫れる、口内炎が治りにくく潰瘍ができる、下痢が続いて痩せてくる、外傷が化膿しやすくなるというように**人間のエイズ**（猫エイズ）**と同じように免疫不全の状態**になります。

- 望まない妊娠を防ぐことができます。



ケンカによる咬傷の例



口内炎の例

- 発情にともなう体調の変化やストレスから解放されます。

**大切な家族のためには、早期の手術をお勧めします。**